
僕は使用人 ♪ ～泣き虫ヤクザ編～

アサゴロモ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

僕は使用人♪泣き虫ヤクザ編♪

【Nコード】

N9888A

【作者名】

アサゴロモ

【あらすじ】

ちよい不良入った容姿端麗、成績優秀な少年が、人間界へ降りて使用人のお仕事をするお話です。まだプロローグで話は展開しないけど、頑張ります♪

プロローグ／ハゲとピアス／

「うおあゝ あああああ！！」

落ちた。
誰が？

「死いぬううううううう！！！」

オイオイ、ヤバイんじゃない？誰だよ？この高さから落ちたらマジで死ぬぞ？誰か助けてやれよ。

「たあすうけえてええ!!!」

だあから 誰だよ！？落ちてんの！？

は？
：俺？

俺ええええ！？「あ、あ、あ、あ、ああ！！！」

*

俺はユキト。ユキト・ウオツシュだ。ウオツシュつつう恥ずかしい苗字だが、仕方ない…ここに住む奴らはみんな変な苗字だから。たとえば…ハウスワークとか、クリーンとか、クッキングとか……。

その、おかしいな苗字にもちゃんと理由がある。全ての共通点は家事に関する苗字。

そう、俺らの住む『世界』

の奴らは皆、人間界へ降りて、人間の為に働き、立派な使用人となるのだ。ちなみにコレ義務ね。二十歳からだから

つてのは余談で、俺は今、空から落ちている……理由は……

*

数時間前

「さてさて、君を呼んだのは他でもない、日頃の態度についてだ」俺は今、学校の校長室に呼ばれ、椅子に座っている……が、校長に縄で椅子ごと縛られてしまった。

ついでに俺様の目の前につたっているのが「使用者養成学校高

等部』の校長だ。頭がハゲていて、そこに丁度太陽が反射して眩しい。多分部屋の電気なんか必要ない。

「ユキト・ウォツシュ……お前、自分の格好をよく見なさい。」

呆れた様子で、わざわざ俺の前に巨大な鏡を設置する。鏡に映された自分をよく観察した。

髪はワックスでセットされ、金と茶色を混ぜたような髪の色（生まれつきだが）、黒縁メガネ、綺麗に整えた眉、耳にはお気に入りピアス、黒い飾りが付いたネックレス、乱れた服装、そしてほのかにかおる香水。

……………我ながら完璧だ。

「……で、なんスか？」

「なんスかじゃなあああああい！！！！」

いきなりハゲ校長が俺の肩を掴む。

「貴様！！ふざけるのも大概にしろ！！貴様のせいで我が校の風格が落ちているのだぞっ！！何なんだ！？耳に穴を空けて！！ワックスをつけて栗のような頭しやがって！！！！」

「校長！一応ボク、学年でトップクラスですよあ？」

校長はタコのように顔を赤くする。熱気が俺の顔にかかり、キモイ。

「だからなんだって言うんだ！！この前の校舎の落書き貴様がやったんだろ！？」

違う違う。それは隣クラスの男子がやったんだよ

「私の浮気現場の写真、お前が撮ったんだろ！？」

違う違う。それは隣の隣のクラスのヤツだ

「違いますってえ。ボクそんなことしませえん」

「き、貴様あ！しらばっくれるつもりかあ！？」

「だあから知らねえつつってんだろ！？糞ジジイ！！殺すぞ！？」

「ついに本性あらわしたな！貴様は誰のお陰で生きていられると思っっているんだ！？お前の馬鹿な親の代わりに私が育てているんだぞ

！？そのピアスも！！ネックレスも！私の金だつ！！」

ハゲは俺のピアスをグイッと引っ張る。

「痛っ」

確かに戸籍上こいつの義息子だ。認めたくはないが、俺の親父はこのハゲとなる

「お前、人間界へ行け」

「は！？」

「頭を冷やしてこい」

まさかとは思ったがマジで人間界へ行こうとは……。ハゲは適当に魔法陣を作り、俺の縄をほどいた。

「成績優秀、容姿完璧、性格最高の俺様がなんで行かなきゃならねえんだよっ」

ハゲは意味不明の笑みを浮かべている。気持ち悪

「ま、社会見学だと思いな。我が息子よ。お前のような不良は、一足早く、学習したまえ」

いきなり自分の足元に、大きな穴が現れる。

「うぎゃああ

ああああ！！」

そうして、俺は人間界へ堕ちていった……。

……ってか、話のテンポ、早くね？

○○○○●ツツク●

第1話〜ヤクザとおもらし〜（前書き）

応援メールを送ると、アサゴロモの身長が1ミリ伸びます

第1話　ヤクザとおもしろし

日本……世界中でも発展している国…。

太陽は既に沈んだのだが、日光に負けない程の電気が日本中を駆け巡る。まるで、星が空から落ちたようだ。

景気もやっと右上がりの方向へいき、政治も良好だ………が、政治は政治でも裏の政治とゆうモノも世界には存在する。

さてさて、今日もヤクザ達が銃やらナイフやら装備して日本中を駆け巡る……。

「うおらあー！ぶっ潰すぞ！？山岡組がああー！！！」

「なんじゃとワレ！！？殺れるもんなら殺ってみやがれエ」

みたいな具合でどこかの都市の、どこかの路地裏で殴りあいが始まっている。

「光乃蔵組が山岡に潰されるワケないやろお！？ああん！！？」

「日本の頂点はワシらが獲るんじゃあー！！！」

光乃蔵だかなんだか分からん組のAとBは山岡のAとBに殴りかかる………るハズなのだが……

『うおあああああー！！！』　「なんか聞こえんか？賢^{ケン}」

光乃蔵AがB…賢に尋ねる　空から少年の声が確に聞こえた

「ああん？聞こえませんかよオ鉄兄」

耳をすます賢の隙をさし、山岡Aが殴りかかる

「死ねえええ！！光乃蔵のネズミがああー！！」

バコッ！！！！ナイスな鉄兄！！山岡Aの鼻に一発決める。もちろんAはノックアウト

そこで、山岡Bは頭に血が昇ったらしく、賢に拳を振り上げた。

賢は自慢の長い足で、山岡Bの腹を蹴る。ブワッホオ！と唾を巻き散らしながら山岡BはAのしたに倒れた

「す、すみません！！俺の不注意で…」

『うおおああああ！！！』 「…………？あれ？鉄兄！！聞こえましたよ！！確に誰かの声が聞こえましたッ」

「な？せやる？でも声の正体の姿が見えんわ」

辺りを見回すが、誰も居ない。

「…………て、鉄兄…………！！もしかして」

「なんじゃい？もしかしてって？」

賢は小刻に震えながら、鉄兄貴の後ろに隠れる

「ゆ、幽霊じゃないんでしょうか…………？」

「ああん？」

幽霊…………死んだ者の魂、怨み……

『死いいいぬううああああ！』

「ひいッ！また聞こえたッ！鉄兄イ俺殺されるウー！」

「だだだ大丈夫や。賢。死んだヤツア声を出さんわ」と、強がるがぶっちやけ、ちびりそう

「鉄兄イ！！ママああ！！おばけ怖いよお」

賢は赤ん坊のようにワンワン泣き騒ぐ。

動揺を隠せない鉄兄…………二人で抱き合って、見えぬ敵に怯える…………

「まんマああ！！！！ボク死んじゃうゝ呪われるゝ！！！」

「はうっはっはッ…………はうッ」

とうとう恐怖で鉄兄は、過呼吸に陥ってしまった

……………本当に…………この人達はヤクザなのだろうか？

「うおおああああああ！！どけエエエエエ！！！」

どんどん近づく謎のボイス。なぜかその声は空から……

空から？

あれ？

鉄兄は夜空を見上げる。

「死ぬううあああ！！！」

「ほあああああああ！！！」

鉄兄は女のような高い声で叫んだ。それもそのはず。なにせヒト

が空から堕ちてきたのだから。

ドッガシヤアアアアアン!!!

*

……………痛い。なんなんだ？ってゆうかココどこ？

「おんしやぁドコのもんじやい」

「ここらは光乃蔵の場所や。何処の組かは知らへんが、さっさと出て行きい」

なんか声がおつかないオジサンに話しかけられてる

ゆつくりと俺は目を開ける。そこにはグラサンかけたヤクザのオジサンが俺を覗きこんでいる。

……………でもなんか、オカシイ。なんか…恐くないってゆうか…よくオジサン達の姿を見ると股間が濡れていた…。

「……………おもらし？」

思わず口にしてしまった。

「ち、違っわー!!アレだ!!ワシらはあいつらの返り血を浴びたんじゃー!!」

ビツと路地の隅に、倒れてるヤクザを指差す

……………どうやってたら股間に返り血を浴びるのだろうか？

なんか大人の見苦しい言い訳は聞きたくない

「賢ー!!コイツ連れてくで」

「は!?!?なんで!?!?」

「ウイッス!鉄兄!」

賢つつうヤクザは俺の体を抑えた。動きたくても、力が全然敵わない。ってゆうか、股間の濡れが俺の服まで染みわたってくる。……………これ、ゼツテエ尿だろ？

「まあ堪忍しいや、兄いちゃん。空から堕ちてきた人間は怪しいと思わんか？」

鉄兄…鉄は俺の顎をクイツと上げる。

「テメエ、放せよ。俺には大事な用事があるんだ」

……………そう、この世界の人間の使用人。確かハゲは、『ジャッパン

のD I 5 1 7 6 3 1 : K O I 2 1 6 3 I M E 2 2 3 7 番の人間が
前のご主人になる。ご主人は貴様独りの力で探せ」
って言ってた。

「あんだ、光乃蔵と山岡の荒れ事、見てたんやろ？何処のスパイや
？白瀧か？仙禅流か？」

「しらねえよ。とにかく放せ。俺はスパイなんかじゃねえし、ヤク
ザでもねえ！」

「しらばつくれやがって… テメエ殺すぞ！？」

なんなんだ… 俺は何もしてないし、なんか変な事態に巻き込ま
れてる。

… もうヤだ… 帰りたい。

「ちよいと氣い失ってもらうわ。よう氣張りの」

「…へ！？ちよつと待て！ヤメロ… グエツ」

そして、俺は、氣を、失った…

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9888a/>

僕は使用人♪～泣き虫ヤクザ編～

2010年11月12日15時29分発行